令和８年９月２４日

木更津市議会議長　草刈　慎祐　　様

議会改革特別委員会

委員長　石井　徳亮

視　察　結　果　報　告　書

本委員会は、所管事項調査のため行政視察を実施したので、その概要を報告します。

記

１．期　　日

令和８年７月２１日（火）～２２日（水）

２．視 察 地

⑴　静岡県湖西市

⑵　静岡県静岡市

３．調査事項

⑴　議会の主権者教育の取組について（高校生との意見交換会）　　（静岡県湖西市）

⑵　議会の主権者教育の取組について(高校生との意見交換会･こども模擬議会)(静岡県静岡市)

４．参 加 者

⑴　委　員

石井　徳亮　　渡辺　厚子　　吾津　松太郎　　安藤　順子

鶴岡　大治　　三上　和俊

⑵　随　行

主査　奥田　賢利

５．概　　要

別添のとおり

視　察　結　果　の　概　要

1. 静岡県湖西市

① 市　　制　　施　　行　　昭和４７年１月１日

② 人　　口　　５６，２４４人　（令和８年８月３１日現在）

③ 面　　積　　８６．５６㎢

④ 一般会計当初予算規模　　２８５億７，０００万円

⑤ 財　政　力　指　数　　１．０６２（令和７年度決算）

〔市勢概要〕

湖西市は、静岡県の最西端、愛知県との境に位置している。緑豊かでトレッキング・コースとしても親しまれている湖西連峰、はるか水平線をのぞむ大海原・太平洋、そして美しい水をたたえた汽水湖・浜名湖に囲まれた、自然豊かで温暖な気候の美しいまちである。本州のほぼ中央に位置するという立地条件に恵まれたことで、全国で唯一現存する関所建物の新居関所、昔の町並みが残る白須賀宿などからも分かるとおり、古くから交通・輸送の要衝として栄え、現在も人・物・情報が盛んに往来している。

現在湖西市では、自動車産業を中心とした工業の一層の発展、恵まれた自然を生かした農業・漁業の合理化・近代化、区画整理や道路整備と相伴って進められている商業の充実などのために、さまざまな施策が進められている。

「魅力ある湖西市をこどもたちへ」をキーワードに、暮らしやすさの向上と元気なまちの実現を目指している。

〔調査事項〕

議会の主権者教育の取組について（高校生との意見交換会）

（事業概要）

湖西市では、選挙権年齢が 18 歳に引き下げられたことを受け、広報広聴特別委員会の活動として、「若者の議会活動に対する認知度の向上」を図るとともに、「若者の考えを政策・提言に反映させる」ことや「若者がまちづくりを考える」きっかけづくりを目的として、平成 28 年度から市内にある２つの県立高校の生徒との意見交換会を開催している。

議会の会議室に高校生を招待し意見交換を実施したほか、テーマに関連する出前講座や、高校に出向いての意見交換も実施している。取りまとめとして、実施報告書を作成して実施した高校へ提供、議会だよりへの内容の掲載、市議会のホームページでも公開しているほか、執行部に対して生徒の意

見を一覧にして情報提供をするなどの取組をしている。

さらに、意見交換で受けた意見を発展させる施策の検討が必要という課題を踏まえ、令和３年度には意見交換を行った高校生が請願を提出し、令和４年度には市制施行 50 周年記念事業として高校生議会を開催している。

〔主な質疑〕

Q1)　意見交換会は年に３回とあるが、日程調整等難しい部分はあるか。

A1)　平成 28 年度から高校生との意見交換会を実施しており、近年は市内２校（うち１校は全日制・定時制それぞれで実施）において、合計３回開催している。日程調整は、学校側の実施希望もあるため、年度当初に各高校の年間授業計画へ組み込んでもらい、市議会はその日程に合わせて実施している。特に全日制課程では、年度途中で授業日程を変更することが難しいため、学校から指定された日程の中で実施可能な内容となるよう調整している。

Q2)　高校側、議会側、双方に負担になっている部分はあるか。

A2)　全日制高校では、２校とも「湖西市探究」の授業の一環として実施している。生徒は、選択したテーマについて年間を通して探究活動を進めており、その発表に向けた準備過程の中で市議会議員との意見交換を行っている。高校側は、授業日程の中で意見交換を実施するため、授業時間の確保や意見交換に向けた事前準備など、一定の調整や対応が必要となっている。議会側は、高校が設定した授業日程に合わせて実施する必要があるため、日程の変更が難しく、議員の日程調整や送迎、会場の手配などの調整が必要となる場合がある。

Q3)　準備段階で、委員や学校との連絡調整等で苦労したことはあるか。

A3)　高校の授業日程に合わせて実施する必要があるため、学校との日程調整や担当する市議会議員との調整を行うことがある。また、意見交換を円滑に進めるため、学校との事前打合せや生徒の探究テーマに応じた担当委員の割り振りなどについても調整を行っている。

Q4)　参加者がその後も交流する機会はあるか。

A4)　交流は特ない。実施校とは、毎年継続して意見交換を実施している。

Q5)　請願の中で形になった事業等はあるか。

A5)　現在は請願書の提出は行っていないが、令和３年度に市制 50 周年記念事業として実施した高校生との意見交換で、請願書の提出が行われた。請願が直接の契機となったかは把握していないが、請願項目の一つであった「インスタグラムなどを活用した若い世代へのさらなる湖西市の情報発信」については、翌令和４年度に公式キャラクター「うなぽん」の公式 Twitter （現 X ）アカウントが開設された。また「ショッピングモールなどの商業施設の誘致」については、令和５年に「イオンタウン湖西新居」がオープンしている。いずれも請願を直接反映したもの

かは定かではないが、請願で提案された内容と方向性を同じくする取組として進められた事例であると考えている。

Q6)　若者の選挙投票率の向上につながっているか。

A6)　意見交換会が若者の投票率の向上に直接結び付いているかは把握できていない。しかし、議会や市政への関心を高めるきっかけの一つになっているものと考える。また、高校によっては、議会との意見交換会の実施時期に合わせて模擬選挙を実施していると聞いており、主権者教育の一環として相乗効果が生まれているものと考える。

Q7)　市内在住者に限る等の制限はしているのか。

A7)　議会からは制限はかけておらず、参加する生徒は学校が選ぶ形となっている。市外に住んでいるからこそ気づける意見というものがあり、学びが深まったと感じた。

Q8)　子ども達との意見交換会等を実施するにあたり、学校や議会事務局の負担を増やさずに、参加のプラットフォームを広げたいと思っている。長く続け、様々な方が参加できるようにするため、AI や SNS の活用によって運営負担を軽減できるのではと感じており、これまでにそのような意見等があれば教えてほしい。

A8)　今年度については「毎年同じことをやること」が目的化しつつあるという指摘が議員の中であったが、SNS に関する調査研究を進めているため、若い人の意見を聞いてそれに反映させるという明確な目的を設定し整理できた。議員側の負担は少ないが、事務局・学校側の負担には配慮が必要であると感じている、また、先生に異動があるため高校内での引き継ぎが大変であるのかなという印象を持っている。

Q9)　市の広報紙と一緒に発行しているとのことで経費削減になっていると思うが、一緒にした経緯は。

A9)　きっかけは、自治会から「配布物が多くて大変なので、広報紙の量を減らしてほしい」という要望があったことである。従来の議会だよりは読まれていないという実態があり、広報紙と一緒に配布することで目に留まりやすくなると判断した。議会活動を発信する環境面では、定例会の様子は YouTube で配信している。また、QR コードを掲載し、詳細情報は自分で取りに行けるほか、 Web やアプリでも閲覧可能な環境が整っていることから、事務費も減らせるという点で、全議員に諮ったところ特に大きな反対もなかったため、まずやってみようとなり、広報紙と一緒にして配っている。

Q10)　高校生との意見交換会を新たに始めるにあたり、学校への最初のコンタクトとして、議員が直接学校に出向いてお願いする方法と、議会事務局から文書を送り後日調整する方法のどちらが効果的か、ご意見をいただきたい。

A10)　どちらから働きかけたかは定かではないが、当時の議員が熱心に尽力したこと、また事務局

も協力をしてくれて、取り組みが定着したと思う。平成 28 年当時、主権者教育の導入や選挙年齢引き下げの流れを背景に、学校側でも模擬投票などへの取り組みが全国的に広まっていた流れの中でできていったと考えられる。

〔考 察〕

湖西市議会では、選挙権年齢の 18 歳への引下げを契機として始めた高校生との意見交換会を、広報広聴特別委員会が中心となり、平成 28 年度から市内 2 つの県立高校を対象に実施し、議会への招待や高校への出前講座など、様々な方法で高校生との対話を行っている。さらに、実施報告書を高校へ提供するとともに、議会だよりやホームページで内容を発信し、執行部にも高校生の意見を情報提供するなど、意見交換を実施して終わりとせず、その成果を共有・発信している。

特に、意見交換で出された意見をさらに発展させる必要があるとの課題認識から、令和３年度には高校生が請願を提出し、令和４年度には市制施行 50 周年記念事業として高校生議会を開催するなど、取組を段階的に発展させている点が印象的であった。高校生が地域課題について考え、議員との対話を通じて意見を深め、実際の議会制度や政策提言につなげることは、実践的な主権者教育として大きな意義があると考える。

一方、年３回の開催は議会側にも相当の負担があると想像したが、特別委員会の６名を中心に円滑に運営できているとのことであり、継続的な取組には明確な役割分担と運営体制が重要であると感じた。また、学校側の担当教諭によって取組への温度差があるものの、恒例行事として定着していることで連絡調整が円滑に行われているとのことであった。継続による学校との関係構築や経験の蓄積は、本市においても参考とすべき点である。さらに、令和６年度からは定時制の高校側からの要請を受けて取組を実施していることから、本市において高校生を対象とした事業を検討する際には、木更津東高等学校の定時制課程に在籍する生徒との連携も選択肢の一つになると考える。

若者の声を聴くだけでなく、継続的な意見交換から政策提言や議会活動につなげる仕組みを構築、発展させている点が非常に参考となった。

2. 静岡県静岡市

① 市　　制　　施　　行　　平成１５年４月１日

② 人　　口　　６６４,２４８人　（令和８年７月３１日現在）

③ 面　　積　　１４１１．８３㎢

④ 一般会計当初予算規模　　４，０３５億円

⑤ 財　政　力　指　数　　０．７８（令和７年度決算）

〔市勢概要〕

静岡市は温暖な気候に恵まれ、北は南アルプスから南は駿河湾に至るまで、豊かな自然環境を有しながら、古くから今川氏や大御所時代の徳川家康公の城下町として、独自の文化や産業を育み、日本の中枢都市として発展を続けてきた。

一方で、温暖な気候に恵まれ、北は南アルプスから南は駿河湾に至るまで豊かな自然環境の中で、「お茶」、「みかん」、「桜えび」など多くの特産物が生まれた。また、出荷額が日本一の「プラモデル」をはじめとした産業や、国際貿易の拠点である清水港などが市の経済において重要な役割を担っている。

また、登呂遺跡、久能山東照宮などの歴史的遺跡・建造物は、本市のみならず日本の大切な財産である。このように静岡市は、長い歴史と豊かな自然に育まれ、個性的で魅力あふれる地域資源を数多く備えている。

〔調査事項〕

議会の主権者教育の取組について（高校生との意見交換会・こども模擬議会）

（事業概要）

【高校生との意見交換会】

平成 29 年度に当時の議長の発案により開始された。

市民と議会の距離を縮めるため、市議会議員と高校生の接する機会を設け、市議会や選挙、身の回りの関心事について、ざっくばらんに話をすることで、高校生に市政や議会、議員に興味を持ってもらうことを目的として、「高校生との意見交換会」を実施している。

当日は、市議会の概要を説明した後、議員と高校生のグループを編成し、高校生が提案したテーマについて、1回 30 分程度のディスカッションを実施し、テーマを変更しながら計２回の意見交換を行う。開催は会期中を除く７月から 12 月までの平日とし、各学校または市役所静岡庁舎で実施している。

【こども模擬議会】

小学６年生を対象に、「開かれた議会」推進事業の一環として、こども模擬議会を実施している。模擬議会を体験することで、議員や市職員の役を演じながら本会議の流れを体験しもらい、市議会の役割や議会運営について学び、議会への関心を深めてもらうことを目的としている。開催は会期中を除く平日に議場で行い、所要時間は概ね１時間で実施している。

〔主な質疑〕

Q1)　市内に高等学校が 27 校あるが、どの高等学校と実施していますか。

A1)　参加経験がある高校は、13 校である。市立は２校、県立は４校、私立は７校であり、年度により参加していただける高校は異なるが、様々な高校に参加してもらっている。

Q2)　高等学校の選定方法はどのように決めていますか。

A2)　事務局から市内 27 校に募集要項を送付し、応募のあった学校と、テーマや日程調整等をした上で決定している。募集する高校の数は、実施体制や委員の参加人数、学校と調整する事務量を踏まえ８校としている。令和８年度は、10 校から募集がきてが、スケジュール等の調整を行い 10 校全てと意見交換会を実施することとした。それより多かった場合は、過去の参加状況を踏まえ抽選とする予定であった。

Q3)　年によって、意見交換する学校を変えていますか。

A3)　固定はしていないため、応募の状況により学校は変わる。

Q4)　事業開始当初から回を重ねることで改善された点は。

A4)　テーマ設定や時間設定などの改善をしている。

Q5)　高校生との意見交換会の実施が、若者の選挙投票率の向上につながっていますか。

A5)　実際に投票を行ったかの数値は把握はできないが、実施後のアンケート調査では「必ず投票に行こうと思うようになった」と回答した生徒は 94％であったため、一定の効果があるものと考えている。

Q6)　意見交換会を実施して、政策提案につなげる方向ではなく、気兼ねなく話をすることで市政や議会、議員に興味・関心を持ってもらう考え方について詳しく伺う。

A6)　一部の議員から政策提案につなげてはどうかという意見は出るが、それよりも気兼ねなく話をして、高校生のリアルを議員に分かってもらうことを目的とした方がよいのではないかと思っている。政策提案を目的とすると、良い意見を言わなくてはいけないと思ってしまい、本音の意見を聞き出せない可能性がある。率直な思いを聞くことにより、今後、市をどのようにしたらよくなるのかなどを考えるきっかけとなると思っている。

Q7)　中学校を対象にした事業は行ったことはあるか。

A7)　職場体験や議場見学に加えて、議会について説明するといったことを学校単位で協力して実施したことがある。過去には、中学校を対象に意見交換会を実施しようとした経緯はあったようだが、授業を含め年間行事のカリキュラムがすでに決まっており、入り込む余地がなかったと聞いている。

Q8)　状況によって、意見が活発に出る場合と、なかなか意見が出ない場合があると思うが、実際に意見交換会を実施してそのようなことはあったか。

A8)　そのようなことはある。学校によって生徒の募集の仕方に違いがあり、例えば、参加希望を募る場合や、生徒会単位、部活単位、クラス単位などで参加をする学校もあり、そのような違いから生徒の熱量も異なるため、意見を言える生徒、言えない生徒がでてくるのではないとか考える。

Q9)　参加をしない学校もあると思うが、先生の考え方なのか、他に参加ができない理由があるのか。

A9)　市立の学校は、市の取組ということで積極的に参加をしてくれる。私立の学校も探求学習を積極的に行っているため、参加をしていただける。難しいのは県立の学校で、県のカリキュラムの中に市の取組が入り込む余地がないような印象がある。県立で参加していただいた学校が２校あるが、１校は夏休み期間に部活単位で参加をしていただいた。もう１校は放課後に生徒会で参加をしていただいた学校がある。

〔考　察〕

「高校生との意見交換会」では、政策提案を直接求めるのではなく、高校生が議員と気兼ねなく話をすることを重視している点が印象的であった。政策につながる「良い意見」を求めることを目的とすると、高校生が発言をためらい、本音や率直な思いを聞くことが難しくなる可能性があることから、身近な話題を含めて自由に意見を交わすことで、若者のリアルな考えや価値観を知る機会をつくり、今後の市政や議会活動に繋げる取組をしていた。また、実施後のアンケートにおいて、「必ず投票に行こうと思うようになった」と回答した生徒が 94%に達していることからも、議会や選挙を身近なものとして捉えるきっかけとして、一定の効果が期待できる。

一方、実施に当たっては、高校ごとに参加方法や生徒の意欲に差があること、特に県立高校では学校のカリキュラムとの調整が課題となるとのことであった。本市において同様の取組を検討する際には、学校側の負担や年間行事等を十分に考慮し、夏休みや放課後など、学校が参加しやすい時期・方法を工夫する必要がある。

また、小学６年生を対象とした「こども模擬議会」は、実際の議場で市議会議員や市職員の役割を体験しながら議会の仕組みを学ぶことができ、将来の主権者教育につながる取組である。本市に

おいても、児童生徒の発達段階に応じて、議場見学、模擬議会、若者との意見交換などを段階的に実施することで、子どもの頃から議会を身近に感じてもらう機会を創出できると考える。

単に議会の仕組みを伝えるだけではなく、若者の率直な声を議員が直接聞き、相互に理解を深める機会を設けることが重要である。こうした取組を継続的に実施することが、議会への関心を高め、将来的な投票行動や市政への参画につながる主権者教育の充実に寄与するものと考える。

3. 総括

今回、湖西市議会及び静岡市議会の取組を視察し、若者や子どもたちに議会を身近に感じてもらうためには、議会の仕組みを一方的に伝えるだけではなく、議員と直接接する機会を継続的に設けることが重要であると感じた。

湖西市議会では、高校生との意見交換を起点として、請願や高校生議会など、若者の意見を実際の議会活動や政策提言につなげている。一方、静岡市議会では、政策提案を目的とするよりも、高校生が議員と気兼ねなく話をすることを重視し、若者の率直な考えや価値観を議員が知る機会として意見交換会を実施している。両市の取組を比較すると、若者との関わり方には段階があり、まずは議員と若者が気軽に話すことから始め、相互の理解や関係性を築いた上で、必要に応じて政策形成や議会活動につなげていくことが現実的であると考える。

また、主権者教育については、学校教育や行政において取り組むことが重要であると考える一方、市議会としても、議会を身近に感じてもらい、市政や議会に関心を持つきっかけを提供することは重要である。特に、若い世代と接する機会は限られていることから、高校生との意見交換は、若者にとって議会を知る機会となるだけでなく、市議会議員にとっても若者の考えや価値観を直接知る貴重な機会となるものであり、双方にとって意義のある取組である。

本市は多くの高等学校が所在しており、学校との連携や日程調整などの課題はあるものの、静岡市のように年度当初に市内高校へ広く案内し、参加を希望する学校と調整して実施する方法は、参考になると考える。特に、「総合的な探究の時間」など学校における探究的な学びとの連携を図ることで、学校側にとっても取り組みやすい事業となる可能性がある。また、高校生に限定せず、大学生や若手社会人などを含めたユース世代と議会が継続的に対話できるプラットフォームを創出できると、今後の展開もしやすいのではないかと考える。

さらに、開かれた議会の実現という観点からは、高校生との意見交換に加え、学習の場として夏休みの議場開放や小・中・高等学校を対象とした議場見学会など、子どもの頃から議会を身近に感じてもらう機会を設けることも重要である。

本市議会においては、若者に高度な政策提言を求めることから始めるのではなく、まずは気軽に意見を交わし、議員と若者が互いを知る機会を継続的に設けることが、一つの有効な方法であると

感じた。その積み重ねが、議会への関心を高めるとともに、将来的に市政や地域の課題について自ら考え、行動するきっかけとなり「主権者教育」の実現につながるものと考える。

以上、視察結果について概略報告する。